

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和3年1月18日（月）～1月24日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	596人	869人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	38.95人	56.86人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	0.69	0.77	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	45%	50%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	9.88%	15.85%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	182人	170人	感染症患者受入病床 260床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	23人	22人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	2901人	2489人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

※5 1月24日(日)現在の報告数（前週分は、1月17日(日)現在の報告数）

2 評価

令和3年1月18日（月）～1月24日（日）の川崎市内におけるモニタリング状況は、

- (1) 新規陽性者数は、前週の869人から**596人**と減少しました。前々々週541人から前々週1123人、とそれまでの増加傾向からさらに急増しましたが、先週に次いで今週と2週連続して減少傾向となりました。

- (2) 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの累積新規陽性者数も、前々々週 35.36 人から前々週 73.40 人と急増しましたが、先週 56.80 人、今週は 38.95 人と減少しました。目安基準は 2.5 人未満ですので、これに対しては依然高値となっています。
- (3) 週当たりの陽性者増加比も、前々々週 1.06、前々週 2.08 と倍増したものが、前週には 0.77 と減少し目安基準 < 1 を下回り、今週は 0.69 とさらに減少しました。
- (4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、前々々週 61%であったものが、前々週には 52%、前週 50%と低下し、今週は 45%とさらに低下し、今週には目安基準 50%未満を下回りました。
- (5) 直近 1 週間の検査陽性率は、前々々週 22.82%とその前の週から急増しましたが、前々週 19.16%、前週は 15.85%と低下し、今週は 9.88%とさらに低下しました。
- (6) 入院中の患者数は前々々週 140 人から前々週 170 人と増加し、前週は 170 人と留まりましたが、今週は 182 人とやや増加しました。
- (7) 入院患者のうち重症者数は、前々々週 18 人、前々週 31 人でしたが、前週は 22 人と減少し、今週は 23 人とほぼ同数に留まっています。
- (8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は前々々週 1195 人、前々週 1980 人、前週は 2489 人、今週は 2901 人と増加が続いています。

(1) 全体の新規感染者数、(2) 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの累積新規陽性者数は、いずれも高い値ではありますが減少傾向が続き、(3) 週当たりの陽性者増加比、(4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、減少が続き目安基準を下回りました。(5) 直近 1 週間の検査陽性率も 2 週続けて減少傾向となりました。

一方 (6) 入院中の患者数はやや増加、(7) 重症患者数はほぼ同数、(8) 全療養者数は増加が続いています。

年末から年始にかけて増加傾向にあった川崎市内の新型コロナウイルス感染者の状況は、先週そして今週と、依然高値ではありますが減少傾向が続いています。これは先週同様に年始めの人の流れの現象に一致するものと考えられる有難い傾向であり、その後発令された緊急事態宣言によって、さらに減少傾向が顕著になることを願っているところです。全療養患者数は増加を続けているのは、前週同様多くの方がまだ回復期になっていないところに減少したとはいえ新たな陽性者数発生のため、全療養患者数としては増加傾向がまだ続いている状況です。このまま全体の減少傾向が続くなら、この数も減少傾向に転ずることになり、またそれが期待されることです。なお、川崎市内の病床数は各医療機関のご協力により、少しずつ増加に向けて作業が進められているところです。

川崎市の新型コロナウイルス感染症は先週今週と 2 週続けて減少傾向にありますが、市民の皆さま方のご協力の賜物です。緊急事態宣言が発令されている中、皆さま方には大変なご不便をおかけしておりますが、正月明けからの減少傾向がさらに続き、重症患

者発生を少なくし、一般の医療が維持され、そして経済状況が続いて回復できますよう、重ねてご協力の継続をお願いいたします。

肝心なことは、引き続き三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなど、日常生活における基本的な、そして重要な注意です。これらの何気ない注意が感染者数を増やさないこと、ひいては重症者数を減らすことに大変役に立ちます。感染を警戒するあまり家の中に閉じこもり切りになる必要はありませんが、どちらかへお出かけになるときには、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと、しかし長時間にわたることなく過ごされるようお願いいたします。

なお、市内のインフルエンザ定点から毎週報告を頂いているインフルエンザの発生動向につきましては、昨年第36週（8月31日～9月6日）～2020年第53週（12月28日～1月3日）の市内インフルエンザ報告数は3に留まっていました。

2021年第1週（1月4日～1月10日）の報告数は0、2021年第2週（1月11日～1月17日）は2例の報告がありましたが、依然極めて少ない状況が続いています。